

化学療法を受けるがん患者の意思決定への看護支援に関する文献検討

笠間末緒¹⁾、塚本康子¹⁾、佐藤郁美¹⁾、若月亜希子¹⁾

1) 新潟医療福祉大学 看護学部 看護学科

【背景・目的】医療の現場では医療の不確実さに加えて、情報通信の発達により情報が氾濫し、がんに関する様々な情報を入手できるようになったことからがん患者の意思決定を困難にしている¹⁾。がん患者が化学療法を受ける際には、治療を開始する、治療をいつまで継続するか、手術や放射線療法、ホルモン療法など他の治療を併用するかといったさまざまな選択がある²⁾。患者は期待するような治療結果が得られないことも、治療継続過程においてがんの悪化を知らされることもあり、そのような状況の中でも意思決定を迫られる³⁾。本研究では、がん患者が化学療法についてどのような意思決定をしているか、看護師はどのような看護支援をしているか先行研究から分析し、意思決定支援を検討することを目的とした。

【方法】文献研究。医学中央雑誌(医学中央雑誌 web 版)で、キーワードを「がん患者」「化学療法」「意思決定」で検索。原著論文 24 件を分析対象とした。

本研究に関する利益相反はない。

【結果】意思決定の局面として、「治療選択」「外来化学療法移行」「治療継続」「終末期」に分類された。

1. 治療選択

「治療選択」の要因には治療方法の効果、治療選択に臨む姿勢、周囲の人の存在があがった。治療方法の効果として、治療による苦痛の体験、治療の限界、治療選択に臨む姿勢としては主体的に情報を得る姿勢や決定する姿勢があがった。周囲の人の存在では、周囲の協力、医師への不信感、信頼できる医師との出会いがあげられた。患者の思いに対応するために信頼関係を構築すること、患者が望んでいることや不明な点を把握する支援が必要といえた。

2. 外来化学療法移行

外来化学療法を受ける恩恵要因として食事の自由、移動の自由、快適な環境、体力の維持、気晴らし、家族の負担減少、負担要因として病状変化に対する不安、診療時間に対する不満、治療イメージの欠如があげられた。外来化学療法への移行に際しては、負担より恩恵が高い状態に転換するよう支援すること、恩恵と負担のバランスに働きかけ外来化学療法への準備性を高める必要があるといえた。

3. 治療継続

「治療継続」には、がん治療に対する見解、ソーシャルサポート、建設的な志向、自分の力だけでは変えられない境遇が意思決定要因としてあげられた。がん治療への見解として無治療への恐れ、治療は医師へのお任せ主義があが

り、ソーシャルサポートでは医師の診療姿勢から得られた安心感、同じがん患者から得られる安心感があがった。建設的志向としてはがんと闘い続けることへの闘志、悔いを残さない生き方へのあこがれ、自分の力だけでは変えられない境遇としては何も言えない弱い立場、望ましい治療効果の薬がないという医学の限界があがった。現状を正確に分かりやすい言葉で伝え、ソーシャルサポートネットワーク構築を図り、意思決定の促進を図ることが必要といえた。

4. 終末期

「終末期」は、手術適応がなく外来化学療法を受けていた事例であった。疼痛が緩和され「外来で治療継続」の意思決定に繋げることができたことから、支援は最優先に身体的苦痛の除去を行う必要があるとしていた。患者の意志・希望・ニーズを把握し、慎重に情報を伝えることが必要だといえた。

【考察】がん患者が化学療法を受けるとき、さまざまな局面があり、意思決定要因も多岐にわたっていた。外来化学療法移行期には、その恩恵と負担を天秤にかけながら意思決定していることから、患者のエンパワメントを高めながら患者の持てる力を発揮できるよう援助していくことが必要だと考えた。一方、がん患者は医師への不信感を感じていることもあり、共にがんと闘う関わり方から、信頼関係を高めていくことも必要といえた。がん患者とその家族にはさまざまな背景があり、それぞれの選択がある。個に合わせた支援の必要があることが再認識された。

研究の限界として、本研究では先行研究により化学療法における意思決定を概観した。がん患者の化学療法を対象とした研究の蓄積が課題である。

【結論】1.化学療法を受けるがん患者の意思決定として、「治療選択」「外来化学療法移行」「治療継続」「終末期」の4局面があがった。2.外来化学療法を受けるがん患者は恩恵と負担を天秤にかけながら意思決定していた。恩恵と負担のバランスに働きかけ外来化学療法への準備性を高める必要がある。3.がん患者とその家族の個々に合わせた支援が必要である。

【文献】

- 1) 田中里佳, 大久保仁司(2017): 高齢がん患者の療養法意思決定支援の研究の動向と今後の課題, ホスピスケアと在宅ケア, 25(1), 12-20
- 2) 瀬沼麻衣子, 武居明美, 神田清子(2013): がん患者の意思決定に関する研究の動向と課題, 群馬保健学紀要, 33, 19-28
- 3) 瀬山留加, 神田清子(2007): 化学療法を受けながら転移や増悪を体験したがん患者の治療継続過程における情緒的反応と看護支援の検討, 日本がん看護学会誌, 21(1), 31-39